

高松市 研究のあゆみ

1 研究主題

児童が言葉を通してつながり合う国語授業の創造
～「課題を解決したい」という願いをもち、
『話せた・聞けた・書けた・読めた』という自己の伸びを実感する授業づくり～

2 研究活動の概要

- (1) 4月 研究組織を作り、研究主題の設定、年間計画作成
6月 授業をもとに、研究を深める

北ブロック 弦打小学校（3年）物語を短くまとめてしょうかいしよう
「ワニのおじいさんのたから物」

下笠居小学校（2年）目指せ 観察名人！野菜の生長の様子を詳しく伝えよう
「かんさつしたことを 書こう」

南ブロック 円座小学校（6年）インターネットでの議論から考えよう
「インターネットの投稿文を読み比べよう」

川島小学校（2年）かんさつしたことを書こう「かんさつしたことを書こう」

- (2) 7月 夏季研修会

- (3) 9月 授業をもとに研究を深める

北ブロック 香西小学校（6年）プラスチックごみの問題について考えよう
「永遠のごみ」プラスチック

鬼無小学校（2年）人物のようすをそうぞうして読む「ニャーゴ」

南ブロック 檀紙小学校（4年）和室と洋室のよさをしょうかいしよう「くらしの中の和と洋」
十河小学校（3年）中心人物について考えたことをまとめよう
「サーカスのライオン」

3 研究内容

- (1) 自分の学びを認識できる振り返りを生かした、「課題を解決したい」という願いをもちたくなる
単元構想や学習問題の工夫

単元を中心となる時間に児童の振り返りを具体的に想定することで、1単位時間の展開やその前後の時間の在り方を考え、単元を構想する。

北ブロック

2年『目指せ観察名人！野菜の生長の様子を詳しく伝えよう』

- 野菜に名前を付けたり、どのように育てほしいか、どんなことをしたいかという願いをもった観察カードを手元に置いたりすることで、野菜に愛着をもち、生長に主体的に関わることができた。

2年『人物のようすをそうぞうして読む』

- 初発の感想を子どもたちの疑問で分類し、問いを作ることで、場面ごとに考えた猫の気持ちを確認できるようにした。

南ブロック

3年『中心人物について考えたことをまとめよう』

- ・ 男の子との出会いによってじんざの気持ちが変わっていく様子を視覚的に捉えやすくするために、じんざの心の状態を「じんざの心メーター」で表すことで、自分の読みを認識できるようにした。

6年『インターネットでの議論から考えよう』

- ・ 単元を通して付けたい力をワークシートに明記することで、自己評価できる振り返りカードを作成したり、前時までの議論の展開を掲示したりしておくことで、気付かせたい「説得の工夫」に目を向けることができた。

(2)「話せた・聞けた・書けた・読めた」という実感を持たせるための指導過程の工夫

教材教具を繰り返し使用したり、同難易度の課題に複数回取り組む時間を設定し、スモールステップやICTを活用して学習の工夫を図ったり、協働的に何かを作り上げる活動や意図的な人数構成をすることで、学び合いを工夫したりする。

北ブロック

2年『目指せ観察名人！野菜の生長の様子を詳しく伝えよう』

- ・ すでに書いている観察カードに付箋で書き足すことで、本時の学びを可視化することができた。

2年『人物のようすをそうぞうして読む』

- ・ 理解を深めるための教具「ニャーゴメーター」を作成することにより、猫がねずみを食べたいという気持ちを赤色と青色で表し、視覚化したことで、気持ちの変化を捉えることができた。
- ・ 紙で虫眼鏡を作り「言葉探偵」とネーミングして、叙述に沿って、根拠を明確にしなが想像を広げることができた。

3年『物語をみじかくまとめてしょうかいしよう』

- ・ 「いつ・どこで・だれが・何を・どうした」を色分けした短冊カードを作成し、そのカードに記入させた。それによって、自分の考えを表現したり、友達と比べたりすることができ、あらすじ作りの助けにつながった。
- ・ 本文を取り入れたワークシートを作成し、場面ごとに同じ形式のワークシートを繰り返し活用することで学び方が分かり、書ける思いにつなげることができた。

6年『プラスチックのごみの問題について考えよう』

- ・ タブレットを活用し、解決策や理由、根拠となる文章をグループ内で発表し合う。タブレットでは、色や線種による分類で、どの資料を根拠にしたかがはっきりとつかめるようになっている。
- ・ スカイメニューに教員が作った手本が示されていたのが子どもにとって分かりやすかった。また各授業で繰り返し同じワークシートを使うことで、考えと根拠をつなげることができるようになっていた。

南ブロック

3年『中心人物について考えたことをまとめよう』

- ・ じんざのイメージマップに火のイメージマップを書き足していくことで、じんざと火の関係性について目を向けさせた。そうすることで、前時までの読み取りとつなぐことができ、じんざの気持

ちの変化をより深めることができた。

4年『和室と洋室のよさをしょうかいしよう』

- ・ 本文をワークシート内に用意し、大切な言葉を囲んだり、言い換えている言葉をつないだり、省ける部分を消していったりすることで子どもが要約しやすくなっていた。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】

○児童の振り返りを基にした単元構成

どの授業においても、単元の中で、付けたい力を考えた時、鍵となる時間がある。その時間の終末で、どんな振り返りが書けたら付けたい力が付いたと言えるか、授業づくりの段階で考えられていた。教師側が児童の振り返りを想定することで、その時間の展開はもちろんのこと、その前後の時間の在り方も見えてくると考える。また学習目標が明確で一貫性が図れるため自己評価と振り返りがしやすく、フィードバックと個別支援が充実できた。児童にとっても学習意欲や自主性を促進させることにつながった。

○付けたい力を付ける手助けとなる教具・教材を繰り返し使用する

登場人物の気持ちを視覚的に捉えやすくするために、ねこの気持ちを「ニャーゴメーター」で、じんざの心の状態を「じんざメーター」で表したことで、どの児童にとっても分かりやすい教具が使用されていた。

また本文をワークシート内に用意することで、大切な言葉を囲んだり、自分の考えと本文をつないで考えたりすることができた。その上、単元を通して同じ形式のワークシートを活用することで、学習の流れをつかむことができた。そのため支援の必要な児童にとっても、有効な活動となった。

ICTの活用も同様で、いつ・どこで・どのように使用するかが大変重要になってくるが、植物の生長の「すごさ」が分かるように動画を授業の導入にもってきたり、児童が実際に活用しながら、色や線種による分類で内容を把握したりする授業が見られた。また色分けやスタンプ、大事な考えを線で表すなどの工夫もあった。

【今年度の研究での課題】

教師が考える振り返りは、児童が本当に付けたい力が付くようになっているかどうかということ、また児童に書かせたい振り返りの中に、付けたい力が入っているかどうかという視点で、単元構成を考えていかなければいけない。

小豆支部 研究のあゆみ

1. 研究主題 付けたい力を身に付けさせるために、自己を見つめることを促す授業づくり

2. 研究主題について

国語科の授業において、国語科の資質・能力を育成するために付けたい力を明確にすることを大切に、これまでも研究を進めてきた。付けたい力を教師だけが意識するのではなく、子どもたちと付けたい力について共有しながら、学習を進めることが重要である。また、今、自分の学びがうまく行っているのか、つまづいているのか、それならどうしたらよいかなど、自分でよりよい方向に向かって学びを進める力を自己調整力と考え、子どもが自ら学習の目標を設定し、見通しをもって進め、その過程を振り返って新たな学習に繋げていく学習過程も大切にしたいと考えた。このようなことから、付けたい力を身に付けるための教師の工夫や自己調整力を育てるための教師の手立てについて研究を進めていくことにした。

3. 研究活動の概要

(1) 4月24日(木) 土庄小学校

- ① 研究組織づくり
- ② 研究計画の立案

(2) 6月12日(水) 土庄小学校

- ① 書写指導についての研修 豊島小学校 藤田剛教諭
- ② 授業研究の事前研修

(3) 11月27日(水) 苗羽小学校

- ① 授業研究 第4学年 岸田秀豊教諭

「聞く人に自分の気持ちが伝わるように工夫して話そう」(『聞いてほしいな こんな出来事』)

- ② 授業討議

4. 研究内容

(1) 1回目の研修について(6月12日)

- ① 文化祭での書写作品づくりについて

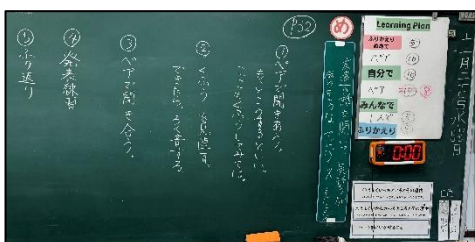
文化祭での書写作品づくりについて、作品の題材と評価方法について共通理解しておきたいことを確認し合った。文化祭は子どもたちが書写学習を通して身に付けた知識・技能を日常生活において発揮できるように提供された場である。そのため、「書道(コンクール)」とはねらいが異なるので、日常生活(地域の名所や観光スポット、学校の特色ある活動・子どもの日記など)において子どもならではの視点を大切にしたい題材を開発することを推奨しているということだった。次に、文化祭作品の評価方法については、各学年ごとに学習指導要領で示されていることを確認しながら、実際に評価をし寸評を書いていく作業を行った。作品のよさを言葉に表すことは想像以上に難しく、大変有意義な研修となった。

- ② 自己とつないだ話したいと思う話題の見つけ方について

2回目の研修会で第4学年「聞いてほしいな、こんな出来事」の授業研究を予定しているので、その授業内容のアイデアを出し合った。個々に、単元計画を立てた後、グループで交流し、単元計画を立案した。たくさんの案が提案され、授業者にとっても参加した先生方にとっても、これからの授業に生かせる内容になった。

(2) 2回目の研修について（11月27日）

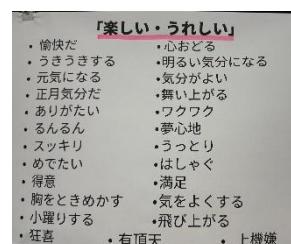
「聞く人に自分の気持ちが伝わるように工夫して話そう」（『聞いてほしいな こんな出来事』）の授業研究を行った。1回目の研修で得た成果をもとに、授業者が児童の実態に合わせた授業内容を提案した。はじめに、児童に学習の見通しをもたせるために、学習活動や必要な時間を自分たちで設定（LearningPlan）してから、活動が進んでいった。気持ちがより伝わる話し方ができるように、ペアで話し方の工夫を考えたり、話す練習をしたりした。気持ちを表す言葉シートを活用することで読み方の工夫につなげられるようにしていた。タブレット端末を活用し、話す内容を録音し、何度も聞き合うことで、互いに評価し合うことができ、課題や改善点を見付けられるよう指導方法を工夫できていた。ペア同士の関係が良好で、温かい雰囲気の中活動が進んでいった。



【LearningPlan を示した板書】



【ペア活動の様子】



【気持ちを表す言葉シート】

(3) 成果（○）と課題（●）について

- 1回目の研修で、文化祭の作品作りについて共通理解できたので、各学校での題材決めや書き方の指導に生かすことができた。また、作品を評価することもスムーズに行うことができたので、毎年、文化祭の前に研修するとよい。
- 2回目の研究授業では、ICT を効果的に活用することで、児童の主体性を高めたりメタ認知する力を育てたりすることができた。
- LearningPlan を立てて学習していったので、活動の見通しがもててよかった。
- 児童が発表原稿に読み方の工夫を書き込み、録音することで、友だち読み方の工夫が見付けやすくなってはいたが、クラス全員の前で話すという相手意識やゴールの見通しが十分もてていなかった。話す時の目線や声の大きさなどに気を配ることの大切さに気付くことができていなかった。録音ではなく、録画をするともっと効果的だった。
- 1時間の学習の見通しをもたせるのはもちろん大切だが、単元全体の見通しをもたせることをもっと大切にしていこう。単元計画を児童と立て、見直し・改善しながら「児童が○○したい」という自己選択ができるような学習を進めていくことがと自己調整力の向上にもつながる。
- 付けたい力を学習指導要領でしっかり確認して、話す側だけの指導ではなく聞く側の指導にも意識を向けて指導をする必要がある。

5 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】

研究授業を通して、付けたい力の確認や自己の学習を振り返る活動について全体討議でき、効果的な単元構成や指導法を把握することができた。

【今年度の研究での課題】

自己調整力を高める手立てとして、交流する観点を示したり、単元計画をより工夫したりする必要がある。

さぬき・東かがわ支部 研究のあゆみ

1 研究主題

児童が成長を実感する国語科学習の在り方
—付けたい力の共有化と振り返りを生かす支援の工夫—

2 研究活動の概要

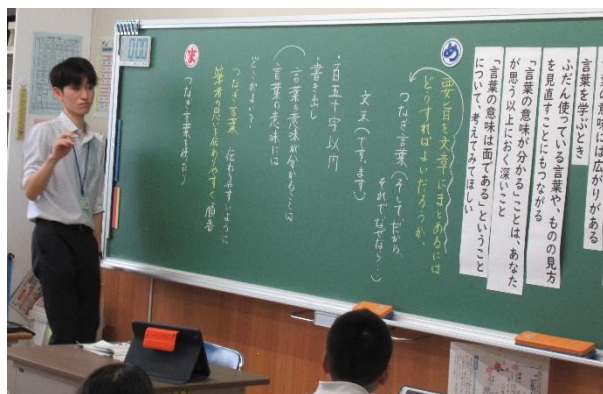
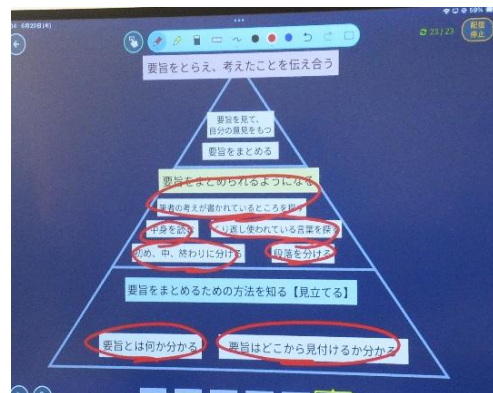
- 4月26日(金) 研究組織, 年間計画, 研究主題について
- 5月30日(木) 6月20日に向けての事前研修会
- 6月20日(木) 授業研究 「5年 言葉の意味が分かること」
- 11月21日(木) さぬき・東かがわ教育文化祭(書写部門) 作品評価研修会
作品の評価研修
作品搬入
県出品作品, 巡回作品の選出と搬入準備
県出品作品, 巡回作品を含む全作品の展示
- 11月26日(日) さぬき・東かがわ教育文化祭作品搬出

3 研究内容

(1) 6月20日(木) 授業研究・討議

- 単元名 文章の要旨をとらえ, 考えたことを伝え合おう
「見立てる」「言葉の意味が分かること」 (光村図書 5年)
- 授業者 さぬき市立長尾小学校 井上 響 教諭
- 本時の目標 筆者の考えが書かれた言葉や文を使って, 要旨を文章にまとめることができる。
- 授業の流れ

説明文「言葉の意味が分かること」を読み, 筆者の考えが書かれた言葉や文をもとに要旨を書く活動を行った。「見立てる」という教材文から学んだ, 要旨をとらえるポイントを使い, 児童の実態に合わせて, タブレットでのキーワードやキーセンテンスの並べ替え, 音声入力, 手書きする等, いろいろな方法を用意することで, 子どもたちが要旨をまとめるという課題に向けて集中して行える環境を整えていた。それによって, 書くという作業に抵抗なく取り掛かることができた。また, 単元や本時のめあてが提示され, どのようなゴールを目指して何に取り組むのかを, 授業者と児童とが共有できるように工夫されていた。



○ 研究討議

- ・ 要旨と要点の違いを明確に示したことで, 筆者の主張や考えが書かれている「はじめ」と「終わり」に着目して読むことが大切だと共有することができた。

- ・ 最終ゴールである，筆者の意見に対して自分の意見を伝える際には，「中」の部分をしっかり理解しておくことも必要である。
- ・ 事前に抜き出したキーワードやキーセンテンスが長かったので，シンプルにまとめて，内容ごとに色分けしておく，まとめる際の順序を意識できたのではないかな。
- ・ まとめる際には，児童にしっかりと接続詞の使い方を身に付けさせておくことも大切である。

○ 指導・助言 香川県教育委員会事務局東部教育事務所 清水 真由美 主任指導主事

- ・ 要旨，要点，要約については，必ず違いを共有しておく必要がある。児童が，「できた，分かった，日常でも使える」と充実感をもって授業に取り組み，今後も，場に応じて，使えるようにしておくことが大切である。
- ・ 単元が，構造や内容を把握してから要旨をまとめ，その後精査・解釈していくという流れになっており，日常の「読む」という活動につなげられるように作られている。
- ・ 発問は，課題発問，発散する発問，焦点化する発問，再構成させる質問があり，授業者が，意図をもって発しなければならぬ。
- ・ 学び合いには，比較するための視点が必要である。さらに学びを深めさせるには，困ったことを出し合ったり，「精査・解釈」したあと，もう一度要旨を見直したりするという場も必要になってくる。そこでの「できた」という達成感が自信につながっていく。
- ・ 振り返りをする際にも，「めあて」を意識し，汎用性のある力になったか，学び方を通して次時への活動を意識しているか等で振り返らせる。また，時には，他者からの評価も個々の学びにとって大切なものになっていくので，そういった時間をとることも考えるとよい。



(2) さぬき・東かがわ教育文化祭（書写部門）作品評価研修会

○ 作品の評価研修（講話）

昨年度と同様，作品としての白黒のバランスや，文字の中心の取り方，名前も作品の一部であることや字形をきちんと整えて書くことなど，評価のポイントについて学んだ。

○ 作品審査

講話で聞いた評価のポイントをもとに，部員で話し合いながら審査した。作品を見る視点をもとに，今後の書写学習の指導に生かしていきたい。



4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】

- ・ 今年度は，研究授業を行い，事前研修会から授業者とともに授業づくりができた。研究授業では，児童が身に付けたい力や取り組むべき活動について意識して活動することで，意欲的に活動することができていた。児童同士の交流や本時の終末での振り返りを，授業者が意図して組み込むことの重要性を確認することができた。

【今年度の研究での課題】

- ・ 振り返りの場面での支援が，児童の思考の広がりや深まりにどのように影響を与えているのかについて，様々な事例を持ち寄って協議していく必要がある。できるようになったという実感をより強くもたせたり，身に付けた力を日常生活に生かせると感じさせたりする支援について考えていきたい。

仲多度・善通寺支部 研究のあゆみ

1 研究主題

学ぶ意味を子供が実感する国語科の授業づくり

－ 付けたい力を身に付けさせるために、自己を見つめることを促す －

2 研究活動の概要

- (1) 4月17日(水) 年間計画、研究主題決定について
- (2) 6月19日(水) 実践研究『授業づくりの基礎・基本』
- (3) 7月22日(月) 仲善支部夏季研修会
- (4) 11月20日(水) 研究授業 琴平小学校(6年)

3 研究内容

- (1) 6月19日(水) 実践研究『授業づくりの基礎・基本』

講師 附属坂出小学校 教諭 東泰右氏

県研究副主題「付けたい力を身に付けさせるために、自己を見つけることを促す」を受け、単元を通して子供に身に付けさせたい汎用的な国語の力の向上を目指した、魅力的な言語活動や有効な単元構成や手立てについて、演習を交えた講話をいただいた。

- (2) 7月22日(月) 講話・実践演習

- ① 「指導と評価の一体化を踏まえた教育文化祭書写作品について」

(書写部会との合同開催)

講師 土庄町立豊島小学校 教諭 藤田剛志氏

指導と評価の一体化を踏まえた教育文化祭の書写作品の指導について講話していただいた。「文化祭は子どもたちが書写学習を通して身に付けた知識・技能を発揮するために提供された場である」という考え方とともに、文化祭のみならず授業における書写の作品の見方や指導方法について多くの学びがあった。

- ② 実践演習「2学期単元の教材分析」

学年別に分かれて2学期の教材分析を行った。付けたい力や言語活動の設定について討議することにより、教材研究が深まり2学期指導の助けとなった。

- (3) 11月20日(水) 研究授業

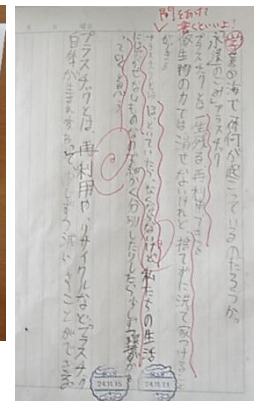
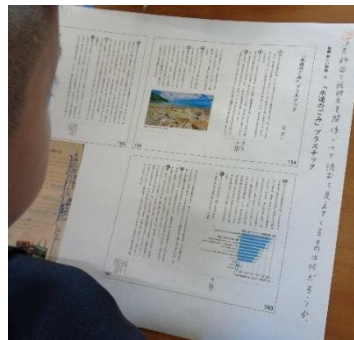
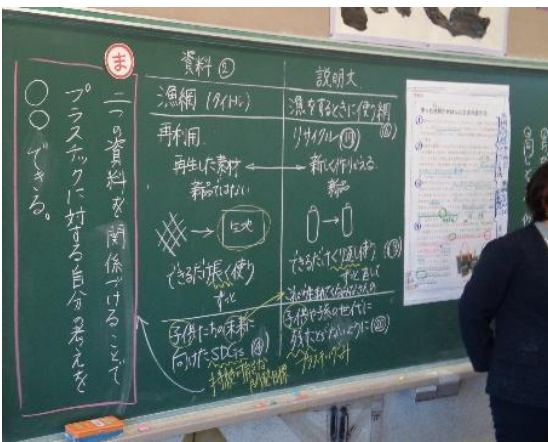
<単元名> 6年 つないで くらべて見えてくる プラスチックの未来
～「永遠のごみ」プラスチック～

本時の目標

資料の読み取りを通して「漁網かばん」の特徴と説明文とを関係づけて読むことで、プラスチックに対する自分の考えをもつことができる。

魅力的な学び合いを行うためのしかけ

- ① 資料と説明文とを一覧にして並べたワークシートを用意し、対比できるようにする。文章中に自由に線を引いたり矢印で結んだり、類似の後を見比べたりすることで、叙述をもとに多様な関係性を見出せるようにする。
- ② 「プラスチックとは」という問いに対して自分の考えを書くことで、考えを整理する時間をとる。



< 研究討議 >

- ・ 5年時の宿泊学習の経験をつなぎ、自分事としてプラスチックごみについて考えさせていた。
- ・ 「関係付ける」と「複数の資料を読み取る」ことは児童にとって難しかった。「プラスチックごみとどのようにつきあっていくか」ということを主軸におき、資料を活用しながら、自分の思いを文全体と比較すると目標や活動が明確になるのではないかと。

4 県の研究との関連

【今年度研究での成果】

- 付きたい力を育成するために単元の目標設定や言語活動の設定について考える授業づくりの研修を重ねることにより、研究授業では、課題解決への意欲を高めていく子どもたちの姿を見ることができた。

【今年度研究での課題】

- 子どもたちが学びに対する必要感や相手意識をもち、学習に対して学ぶ意義や楽しさを実感できるような国語科の授業づくりを目指していきたい。

三豊・観音寺支部 研究のあゆみ

1 研究の主題

学ぶ意味を子どもが実感する国語科の授業づくり
ー付けたい力を身に付けさせるために、自己を見つめることを促すー

2 研究活動の概要

- (1) 4月26日(水) 第1回役員研修会(三豊市立本山小学校)
・年間計画作成・研究内容の検討
- (2) 8月2日(金) 第2回役員研修会(三豊市立本山小学校)
・模擬授業の事前研修会
- (3) 10月18日(金) 全体研修会
・第3学年の新教材(物語及び説明文)の模擬授業・授業づくり研修

3 研究内容

- (1) 第3学年の新教材(物語)の模擬授業・授業づくり研修について

○ 授業内容(分科会A)

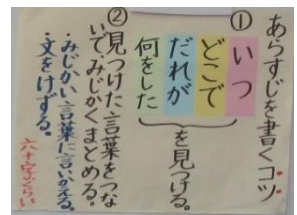
3年「ワニのおじいさんのたから物」

単元名 物語をみじかくまとめてしょうかいしよう

あらすじの重要語句を見つけ、その語句をつないだり、言葉を置き換えたりすることを通して、どの児童もあらすじを書くことができるような授業を提案した。また、あらすじの良さを話し合い、伝えたいことによってあらすじに違いができることを理解し、それぞれのあらすじの面白さを実感できるような授業を展開した。

○ 授業討議

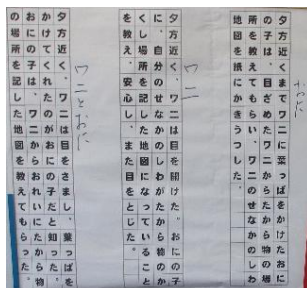
- ・ 重要語句を児童が見つけ、板書に残すことで、そこから選択してパズル感覚であらすじを書くことができるので、どの児童もあらすじを書ける。
- ・ あらすじは、書く人によって主語や取り上げる内容が変わってもよいと分かった。
- ・ いちばんよいあらすじを考えるのではなく、どの言葉を大切にしたいかを話し合うことで、それぞれのあらすじの良さを捉えさせることができる。



【あらすじを書くコツ】



【模擬授業】



【主語の異なるあらすじの例】



【グループでまとめたあらすじを発表する様子】

(2) 第3学年の新教材（説明文）の模擬授業・授業づくり研修について

○ 授業内容（分科会 B）

3年「カミツキガメは悪者か」

単元名 生き物について考えを深めよう

香小研夏季研修会で提案のあった「説明文ハウス」を使い、問いと答えを要約した文を毎時間書き込んでいく授業を提案した。本時は、13～17段落の中で、悪者だと思っていたカミツキガメが、本当は自分の身を守るためにしていたことだと気づいていけるように「悪者メーター」を使って、児童に揺さぶりをかける授業を展開した。



【説明文ハウス】



【悪者メーターを使った模擬授業】

○ 授業討議

- ・ 「説明文ハウス」の良さが分かったので、他の説明文でも使ってみたい。
- ・ 参加者は児童役になり、人間とカメの両者の視点から考えることができた。
- ・ 悪者度が真ん中くらいを付ける人が多かったが、教師側は悪者度の数値を想定して17段落を後で読ませることで、悪者の方に意識が向いたのではないかと感じた。
- ・ この説明文は、問いと答えが分かりやすく出てくるので、そこを手がかりに読むとよい。



【板書】



【授業討議】

4 全体協議・ご指導

- ・ 「C読むこと」(オ)の文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことが大切である。目的に応じて読みは変わり、個によって想像することも異なる。本文の言葉から、冒険物語だと感じる児童もいれば、感動的な物語と感じる児童もいる。
- ・ 他の場面や関連図書からの感想とつなげて考えることで、自分なりの解釈、考えの形成につながる。
- ・ 登場人物の性格は、一つの叙述だけでなく、複数の叙述を根拠にすることで、より具体的に登場人物の性格を思い描くことができる。
- ・ 自覚的に児童が中心となる語や文を見付けるように、読む目的を意識させることが重要である。

5 県の研究との関連

【今年度の研究の成果】

新教材の授業づくり・模擬授業を通して、児童が自分なりの解釈や考えを持ち、自分と友だちとの考えの共通点や相違点を捉えて、何度も考え直したくなるような学習活動を工夫することができた。

【今年度の研究の課題】

さらに主体的な学びにつなげ、他の場面や関連図書、自分の経験等をつなげて考えを形成できるしかけや、自分や友だちの考えのよさを振り返るしかけを考える必要がある。

坂出・綾歌支部研究の歩み

1 研究主題

学ぶ意味を子供が実感する国語科の授業づくり
—付けたい力を身に付けさせるために、自己を見つめることを促す—

2 研究活動の概要

研究主題である「学ぶ意味を子供が実感する」姿とは、子供がその単元で身に付けたい力を意識しながら、話す・聞く・書く・読むなどの学習活動に主体的に取り組み、協働的に課題解決に向かう中で、自分の伸びを感じたり、身に付けた力を新たな問題解決に生かしたりする姿のことである。そのような姿で学びに向かう子供たちは、国語を学ぶおもしろさ、楽しさ、大切さを実感し、必然性をもって学習解決の道筋を見出していくとともに、国語科の見方・考え方を働かせ、目指すべき資質・能力を育成することができるように考える。

研究を進めていくにあたり、授業づくりの視点として次の2点を挙げた。1つ目は、授業を3つの場面（課題設定前・課題解決中・課題解決後）に分け、自己を見つめさせるタイミングを意図的に設定することである。まず、課題解決前においては、自分が解決したい課題になっているか確認できるようにする。次に、課題解決中においては、自分の考えや学習の取り組み方を確かめ、より自分の考えを納得できるものにするために再考できるようにする。そして、課題解決後においては、自身の成果を振り返り、次に取り組むべき課題を見出すことができるようにする。

2つ目は、自己を見つめる3つの場面における目的を達成するための、手立てや支援を考えることである。まず課題設定前は、課題解決の意欲を高めさせることが目的である。そのために、自分たちの学習の目的を全体で共有するとともに、これまでの学習の進捗を確認できるようにすることが必要である。次に課題解決中は、より納得できる考えをもたせることが目的である。そのために、自他の考えの共通点や相違点を捉えやすくしたり、活動や教具を工夫したりするなどの支援を行い、本時の課題に対する自己の考えを見つめさせることが必要である。そして課題解決後においては、自身の取り組み方やその成果を捉えさせることが目的である。そのために、「何を」「いつ」「どのように」振り返らせるのか、単元や本時の学習の特徴に合わせて、効果的な振り返りの方法を考えていくことが必要である。

以上の視点を踏まえ、国語科の授業づくりを行ってきた。今年度はさらに、自己を見つめさせるためのより具体的な実践や、効果的な支援の在り方を探ることを重点目標として研究を進めた。

3 研究内容

(1) 5月29日 授業実践

第6学年「いざという時のために（論の進め方を工夫して提案書を書こう）」

授業者 坂出市立東部小学校 教諭 黒崎理恵

本単元では、自分や家族の身を守るために必要な防災の取組について考え、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えて提案書にまとめる活動を行った。課題設定をするにあたり、児童が毎年参加している地域の取組「防災フェスタ」で、自分たちの作成した提案書を地域の方に見てもらおうという目標を共有した。これにより、児童は相手意識をもち、意欲的に学習に取り組むことができた。そして、児童にゴールのイメージをもたせるために、3つの提案書のモデル

を示し、書きぶりの異なる3つのモデルから自分にとって説得力があると思うものを選択した。これにより、各々の児童がどのように論を進めようとしているのか明確になり、友だちと読み合う際には、構成メモの順をアドバイスするための手がかりとなった。また、「はじめ」「中」「おわり」に書かれた内容が、伝えたいことと一致し、つながりのあるものになっているか確認するための指標ともなった。提案書作成においては、学習支援アプリを用いたことで、事実と考えをカードごとに色分けしたり、修正前と修正後を区別したり、順序を入れ替えて構成を直したりすることが容易になり、より説得力のある提案書を仕上げることができた。

(2) 10月16日 授業実践

第2学年「絵を見てお話を書こう」

授業者 宇多津町立宇多津北小学校 教諭 中添友香理

本単元では、1・2・4場面の絵を手がかりにして、間の3場面のお話を場面のつながりを捉えながら想像し、事柄の順序に沿ってしたことや言ったことがよく分かるように書く活動に取り組んだ。3場面の出来事について想像を膨らませるには、前の場面で起こったことについて詳しくイメージをもつとともに、4場面での登場人物の言動とつながる展開を考える必要がある。そのために、冒頭では教師が3場面のバッドモデルを示し、なぜこれではいけないのか問う活動を取り入れた。場面同士がつながるためには、そのような行動に至った理由が分かるようにしなければならないことを、全体で共有することができた。また、ワークシートを活用し、場面絵や吹き出しから分かることと、物語の文章から分かることを分けて記入する欄を設定し、児童は登場人物を増やしたりアイテムを工夫したりするなど、自由に想像を広げながら3場面の展開を考えることができた。

4 県の研究との関連

【成果】

課題設定前に、児童にとって学ぶ必然性を感じる目標を設定し、それを児童と教師が共有したことにより、学習意欲を高めることができた。(1)の実践では、冒頭で提案書のモデルを示し、自分たちの作成物のイメージをもたせたこと、そして、作成した提案書を地域に公開するという最終目標を設定したことである。(2)の実践では、教師のバッドモデルから、本時、自分たちが課題解決するためのヒントを全体で導き出したことである。各々が自分たちの目指しているゴールのイメージをもった上で学習を開始することは、児童の意欲の向上に大変有効であった。

【課題】

自分たちの書いた文章がつながりのあるものになっているか確かめるために、友達と読み合う時間を設定することは必要であるが、どのような視点で交流するのかを明確にするための支援が必要であった。課題解決中に自分の考えを捉え直し、再考していくためには、自分と友達との考えの異同に目が向くような視点の掲示や教具の工夫が、今後の課題である。また、課題解決後の振り返りにおいては、毎時間の積み重ねによって伸びを実感することはできているが、何を、どう振り返ると次の課題を見出していくことにつながるのか、課題が残った。自己を見つめ直し、次の目標につながる振り返りの在り方について、今後、具体的に研究を進めていきたい。